

第3回市立湖西病院経営強化プラン策定委員会の概要

開催日時：令和5年10月25日（火）13時30分～14時47分

会場：市立湖西病院2F 講堂

議題：市立湖西病院経営強化プランの内容について

① 市立湖西病院経営強化プラン(案)の概要説明（事務局）

《抱えている課題》

- ・ 医師、看護師等の医療従事者の慢性的な不足
- ・ 市から多額の基準外の操出金に頼る経営
- ・ 築後35年を経過し、建物および設備の老朽化

《取り巻く環境》

- ・ 患者圏はほぼ市内に限定している反面、災害時の医療供給体制の整備が必要
- ・ 令和5年3月、湖西市が静岡県医師少数スポットに指定
- ・ 日本医師会システムの予測では今後、20年以上、湖西市の医療・介護需要は低下しない。

《目指すべき病院像》

コミュニティホスピタル

プライマリ・ケア、一般急性期・回復期・在宅医療・健診の機能を持つ地域に密着した多用途なことを行う病院

- ・ 総合診療医を含む医療スタッフを育成する基幹施設を目指す
- ・ 地域包括ケア病床の病棟化（急性期から回復期への一部機能転換）

《役割・機能の最適化と連携の強化》

- 令和5年3月、市内の地域医療提供体制連携協定を締結
- 令和4年11月、浜松市との地域医療提供体制連携協定を締結
 - ・ 役割分担の明確化（高度急性期は浜松医療センター、回復期は当院）
 - ・ 助産師派遣による助産師外来
 - ・ 浜松市立看護専門学校の湖西市枠
 - ・ 人事交流

《医師・看護師等の確保と働き方改革》

- ・ 医師少数スポット
- ・ 潜在看護師の復職支援対策
- ・ 基幹的な医療機関からの派遣の仕組みづくり

《点検評価》

定期的に見直しを行う評価検討委員会を設置

【委員からの意見】

竹内委員

- ・ 重要なポイントとして、これからの5～10年で求められる医療内容の大きな変

化への対応、市内での医療機能の分担と連携、中小病院の経営が厳しさを増す中、どのように効率化を図るかの3点が挙げられる。

- ・ 医療従事者の確保では、医師については、少数スポットなどで若い医師の派遣は期待できるが、限られた指導医の確保が今一番の問題である。浜名病院との機能分担と、病院独自で総合診療医の養成をうまく進めていくことがポイント。看護師については、地域包括ケア病棟化への転換により高齢者の患者さんが増えることが予測できるため、看護師が看護業務に専念できる体制として看護補助者の確保が必要である。

また医師不足の解消するため、医師からの指示により特定行為が行える特定看護師の養成を考えていくことも検討してはどうか。

- ・ 国は、2030年の電子カルテの標準化を目指しているため、病院の建替の検討の際は、そのあたりのスケジュールも含めて計画されたい。

大貫院長

- ・ 指導医について、内科医3人が取得済みで外科医2人が申請中である。特定看護師については、当院にとっての功罪について議論の余地があるが、進められるよう看護部と話し合っている。

建築移転およびDXについても内部で考えているが、今回のプランには具体的に入れていない。

竹内委員

- ・ 総合診療医の育成プログラムは、病院の中で刺激し合えると思う。また、市立病院では市との関係部署（介護、健診、健康増進など）との連携が密に出来ることが強みであることから、予防事業・介護事業との連携を深めてほしい。

猪井委員

- ・ 多文化社会は進んでおり、今後5年も進む傾向が続くと思う。プランの取り組み中に外国人施策が記載されていないので、入れていただくことを要望したい。

内藤委員

- ・ 外国人通訳の話がありましたが、例えば外国人雇用はいかがでしょうか。私の勤務先で雇用している方が日本語も理解され優秀である。医療従事者をサポートする役割に外国人の方が居れば、通訳も担えるのではないかと感じたがいかがか。

また、高齢者の一人暮らしが増えており、老老世帯でも病院に受診して医師から言われたことが分からなかったと話された方もいる。コミュニティホスピタルは、そうしたところも高齢者にやさしい環境や安全性・快適性などの施設運営がなされるといいと思う。そういう意味では、コミュニティホスピタルは賛成である。

杉浦病院事業管理者

- ・ すでに若いバイリンガルの職員も雇っているが、主たる業務を別に持っているため、時間があるときに、通訳等のお手伝いをしていただいている。院内の業務は、外注に出している部分も多いので、外注先も含めて検討していきたい。

榛名委員

- ・ 医師会との連携強化に関して今問題になっているのが発熱外来である。今年度の冬またを来年度以降はどうするか、である。市内の開業医の平均年齢が60代前半と高齢化が進み、現在日曜祝日の当番医1医療機関だけではコロナやインフルエンザのピーク時には大変になる。湖西病院で発熱外来を引き続き診ていただき、医師が不足であれば開業医が手伝いに行くなどの融通が利くような連携体制が構築できればいいと思う。

板倉委員

- ・ 定期的に湖西病院を受診しているが、一番思っているのが待ち時間が長く、診察時間はわずか。効率よく出来る方法を考えてほしい。また、昨年かかりつけ医が2か所閉じてしまった。突然医師が居なくなっても地域医療が成り立つように開業医と病院が連携してほしい。

大杉委員

- ・ 「湖西市においてどのような医療をこれから提供しなければいけないのか」と、「どの医業者が関わり、どういう形でやっていくのか」の2点がこのプランの中で一番重要な観点と理解している。
- ・ 総合診療やコミュニティホスピタルという新しい病院のあり方が、若手医師を中心に、少しずつ魅力を感じてくれる人が世の中に増加している現状がある。
- ・ 我々の連携施設として協力いただくということ、さらに、湖西病院が基幹施設として総合診療医を育成していくことにより、若手の総合診療医を中心としたそういった医療に興味を持った人たちが直接アプライをしてもらえよう病院としての魅力が発信できるように、ともに協力して実現していけたらと思う。
- ・ 湖西病院は市立病院なので、人事院勧告でベアがあった。これは収益とは関係ない部分で費用が伸びたりすることは市立病院として苦しいところである。